

細見コレクション
江戸時代の絵画
〈特集展示〉細見古香庵 数寄がたり

細見コレクションには、二代古香庵・細見 實が蒐集に情熱を傾けた琳派や伊藤若冲の作品のほか、江戸時代のさまざまな絵画が含まれています。都市の賑わいや祭礼を描いた屏風や、草花や動物をいきいきと描いた作品、雅やかな物語絵、個性豊かな画家たち…。

本展では、細見コレクションの中から江戸時代に描かれた絵画を展示、人気の琳派や若冲のみならず、これまで紹介する機会が少なかった作品も披露します。多種多様な江戸絵画の豊潤な世界をお楽しみください。

さらに、特集展示では茶の湯釜や茶碗など、数寄者・古香庵の愛蔵品を紹介します。

— 展覧会概要 —

- | | |
|------------|---|
| 1. 展覧会名称 | 細見コレクション 江戸時代の絵画
〈特集展示〉細見古香庵 数寄がたり |
| 2. 会 期 | 2022年12月13日(火)～2023年2月12日(日) ※一部展示替えあり |
| 3. 開 館 時 間 | 午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで） |
| 4. 休 館 日 | 毎週月曜日（祝日の場合、翌火曜日） 年末年始(12月26日～1月4日) |
| 5. 入 館 料 | 一般 1,300円 学生 1,000円 |
| 6. 主 催 | 細見美術館 京都新聞 |
| 7. 会 場 | 細見美術館 京都市左京区岡崎最勝寺町6-3
http://www.emuseum.or.jp |
| 9. 本展連絡先 | 細見美術館 TEL: 075-752-5555(代) FAX: 075-752-5955(代)
広報担当 大塚 kouhou@emuseum.or.jp |

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ご入館および施設のご利用にあたってはマスクをご着用ください。また、急激な状況の変化により、止むを得ず会期・営業日時等を変更する場合があります。詳しくはホームページをご覧ください。

— 主な出品作品 —



男女遊楽図屏風 江戸前期 細見美術館蔵

【展示期間：2023年1月17日～2月12日】

金箔地に、12人の人物を絶妙に配置し、時も動きも封じ込めたかのような屏風。男女の煌びやかな衣裳や様々な髪型、洗練された小道具類も、流行の発信地であった遊楽の場の華やかな様子を伝えている。国宝「風俗図（彦根屏風）」（彦根城博物館）に強く影響を受けた遊楽図の優品として知られる。

近世初期、盛んに描かれた風俗画は、戦乱の世から新しい時代へ移行する多様な価値観の中で育まれたもの。人物一人一人の容姿に注目するこうした捉え方は、浮世絵美人画誕生の契機ともなった。



池大雅 児島湾真景図 江戸中期 細見美術館蔵

18世紀、中国からの流入により、日本でも文人画が最先端の絵画として広まる。絵画に重要なことは形ではなく、そこに宿る本質、また作者の心情を表現することであるという考えに共感した人たちによって、世俗を離れた理想郷などがテーマとして選ばれた。

本図は文人画の大成者、池大雅（1723～76）が、友人の韓天寿（1727～95）と瀬戸内を周遊中に見た児島湾（岡山県）の風光を描いたものとされる。しかし、人物は唐風の風俗で描かれている。大雅は旅した地を理想化した形で表現し、美しい思い出として遺したのである。印象派のような点描は、大雅独自の清新な色彩感覚を示している。



鈴木其一 水辺家鴨図屏風 江戸後期 細見美術館蔵

水辺に集う家鴨の群れを金地に描く。金地に水流と鶴を連ねて描いた尾形光琳の屏風（フリーア美術館）が知られるが、この家鴨図はそうした先行作品に着想を得たものであろう。大きく弧を描く水辺や同一のモチーフを連ねる構成はいかにも琳派の様式に従っているが、家鴨の嘴（くちばし）や水掻きなどは極めて写實的に描かれている。

其一（1796～1858）は江戸琳派の祖、酒井抱一（1761～1828）の有力な弟子。抱一没後、明快な作風で目覚ましい活躍をみせた。近代を予感させるリアリズムと、古典的な意匠性を見事に合致させ、幕末の江戸で個性豊かな画境を開いた。



小澤華嶽 ちょうちょう踊り図屏風 江戸後期 細見美術館蔵

「ちょうちょう踊り」は天保10年（1839）の3月から4月に京都で大流行した仮装踊り。「チョイチョイ踊り」「豊年踊り」ともいう。集団で揃いの装束、または様々な人物、動物に扮した格好で昼夜問わず熱狂的に踊った。

本図では犬や猫のほか、カエルやカタツムリ、大根や灯籠に扮した人々が描かれる。喧騒の中、頭に手をやり直立する人物は取り締まりの役人だろうか。

小澤華嶽（生没年不詳）は初め岸駒（1749/56～1838）、のち横山華山（1781/84～1837）の弟子。風俗画を得意とし、本作と同画題の「蝶々踊図巻」（天保10年、大阪歴史博物館）が知られる。

〈特集展示〉細見古香庵 数寄がたり

特集展示では、月刊茶道誌『淡交』に2022年1月号から1年にわたって連載された「細見古香庵 数寄がたり」より茶の湯釜や茶碗など、数寄者・古香庵の愛蔵品を紹介します。



重要文化財 芦屋霞地楓鹿図真形釜 室町時代 細見美術館蔵



資料（画像）・取材をご希望の方は、ホームページリリースページ
もしくは左記QRコード「資料（画像）申込フォーム」からお申込み
ください。